



## 2004 年会員登録のお願い

ことしもまた RSCDS 本部/東京支部会員登録の時期となりました。いっそうの活動充実をめざしますので、昨年を上回る会員登録を願っております。

### 1. 会員の種類と年会費

#### (1) 東京支部から本部へ会員登録するかた

##### a. 年次会員(更新・新規とも)・・・計¥4,500

東京支部年会費・・・¥2,000

本部年会費・・・¥2,500

##### b. 長期会員および終身会員

東京支部年会費・・・¥2,000

(ことし長期会員資格満了となるかたは、上記の年次会員で申込んでください)

#### (2) 他の支部から本部へ会員登録するかた

東京支部年会費・・・¥2,000

#### (3) クラス案内はがきの受領を希望するかた

はがき代・・・¥500

2. 無料配布品(東京支部から本部登録した場合)・・・Book 44 です。これがご不要のかたは Book 1-43、ポケット版 Book 1-41 あるいはダンス・インデックスのなかから1冊、ご希望の品をご記入ください。

### 3. 申込み方法

同封の申込用紙に、単名で必要事項をご記入のうえ、セクレタリあてお送りください。会費は別途郵便振替でお払込みください。(ご友人への勧誘などで申込用紙が不足するかたは、セクレタリあてご請求ください)。東京ブランチレターをコピーして配っている会員がおられるとすれば、そのご友人にぜひ新会員になられるようお勧めください。

セクレタリ 若松陽子

191-0022 日野市新井 405-3

T/F 042-593-2446

郵便振替 00160-9- 64023

RSCDS 東京ブランチ

### 4. 締切り: 4月30日(金)

まだ時間があると思わずに、即刻お申込みされることをおすすめします。

### 5. お問い合わせは

セクレタリ 若松陽子まで■

## 2004 年支部年次総会

大勢の会員のご出席をお待ちしております。

5月29日(土)または 6月5日(土)

午後1.30-5.00

(会場確保中)

議題: 1. 2003 年度活動報告

2. 2003 年度会計報告

3. 2004 年度役員改選

4. 2004 年度活動計画

5. 2004 年度予算

6. その他

年次総会終了後、ソシャル・ダンシングをお楽しみください。

|                               |       |
|-------------------------------|-------|
| Joie de Vivre                 | 39-2  |
| Back to the Fireside          | 38-4  |
| Monymusk                      | 11-2  |
| The Duke of Atholl's Reel     | 16-3  |
| West's Hornpipe               | 1965  |
| My Friend Joe                 | 38-2  |
| Pelorus Jack                  | 41-1  |
| The Reel of the 51st Division | 13-10 |
| Extra: The Clansman           | 32-8  |
| The Gilly Fower               | 36-8  |
| The Lea Rig                   | 21-5  |
| Mairi's Wedding               | Cosh  |

## 東京支部役員改選

支部運営委員の任期は1年間のため、上記の年次総会において2004年度運営委員を選挙します。とくにチェアマン、トレジャラは新しい人を選挙しなければなりません。

立候補(推薦を含む。以下同じ)されるかたは選挙管理委員までお申し越してください。東京支部を通じて本部会員登録したかたが立候補できません。

選挙管理委員

池間悦子 T/F 045-982-8528

鈴木百代 T/F 049-296-1766

立候補締切り 5月10日

推薦の場合は必ず被推薦者の同意を得てください■

## 東京ランチ・クラス

### ビギナーズ・クラス

4月12日(月)・26日(月) 1.30-4.30  
講師 小山かおる・境雅子

### 5月から新しく半年コース

昨年11月から始まったコースは4月で一区切りとなり、5月から新しく半年コースを始めます。この機会にカントリーダンスを楽しみたい方にぜひご参加をおすすめください。

5月10日(月)・24日(月) 1.30-4.30  
以降毎月第2・第4月曜日  
千代田区総合体育館 5F・多目的室 ¥800  
講師 境雅子・神倉那智子  
担当 松田正子 0438-23-0475

### ステップ・ダンス・クラス

4月10日(土) 1.15-2.05  
5月8日(土) 1.15-2.05  
以降毎月第2土曜日  
講師 櫻井香枝  
幡ヶ谷社会教育館(予定) ¥300  
担当 池間悦子 045-982-8528

### インターミディエイト・クラス

4月10日(土) 2.15-4.30  
講師 中田多鶴子  
5月8日(土) 2.15-4.30  
講師 鈴木百代  
6月12日(土) 2.15-4.30  
講師 有田深雪  
7月10日(土) 2.15-4.30  
講師 トム鳥山  
8月14日(土) 2.15-4.30  
講師 吉澤敦子  
幡ヶ谷社会教育館(予定) ¥800  
担当 池間悦子 045-982-8528

### アドバンスド・クラス

4月3日(土) 6.20-8.45  
講師 長峯真弓  
5月1日(土) 6.20-8.45  
講師 佐藤仁美  
7月3日(土) 6.20-8.45  
講師 五十嵐成子  
8月7日(土) 6.20-8.45  
講師 若松陽子

いずれも会場は別途お知らせします  
担当 鈴木百代 049-296-1766 ■

## 東京支部20周年行事

### <ウィークエンドは2005年1月に>

場所および日程を再検討した結果、下記のとおりウィークエンドとボールをまとめ、1月末に行なうことにしました。

2005年1月28日(金)-30日(日)3日間

### 鎌倉プリンスホテル(七里ガ浜)

講師 アン・ディックス  
& レイチェル・ウィルトン  
ミュージシャン デビッド・ホール  
& ジュディス・スミス  
参加費 ¥40,000の予定 ■

## グループ・データのご送付を

この夏に発行予定の支部年会報に、スコティッシュ・ダンスを楽しむ人に便利なよう、例年のとおり・スコティッシュダンス・グループの名簿を載せることにしています。グループ連絡先の方に記入用紙をお送りしますので、セクレタリあてご送付をお願いします ■

## はがき、ありがとうございます

前号のランチレターで不要な年賀はがきのご提供をお願いしました。3月初めまでに約200枚のはがきならびに相当数の不要切手ご送付をいただき、委員会一同感激しております。ランチ・クラスの案内その他に有効に活用いたします。ご提供いただいたみなさんにお礼申しあげます ■

## RSCDS 東京支部

チェアマン 鳥山豊喜(トム鳥山)  
T/F 044-988-7773

Email: Tomtori@aol.com

セクレタリ 若松陽子 T/F 042-593-2446  
〒191-0022 日野市新井 405-3

Email: ywakamat@mail.hinocatv.ne.jp

トレジャラ 境 雅子 T/F 047-368-3873  
委員会メンバー 池間悦子 045-982-8528  
佐藤裕治 0424-86-3929  
鈴木百代 049-296-1766  
松田正子 0438-23-0475  
藤田淑子 044-954-7235

ホームページ [www.ne.jp/asahi/tokyo/branch/](http://www.ne.jp/asahi/tokyo/branch/)  
同担当 吉澤敦子 T/F 0298-41-0767 ■

## 本部理事会報告

(本部議事録 2004.2. 25 から概略)

2月14日の本部理事会の内容は、

- \*2004年の本部AGMは、会場の独占使用不可がわかり、エジンバラからパースに変更された。
- \*Bulletinの配布遅延。クリスマス前に受け取った支部もあれば、どうなっているのかと文句を言うてくる支部もあった。印刷会社から発送会社への代金支払遅延のためとわかり、今後は発送会社との直接契約を考える。
- \*功績顕著なブランチを表彰するため、2004/05からブランチ賞を設ける。
- \*功労賞を授賞したあと、その人には何もしていない。ホリールード宮殿のロイヤル・ガーデン・パーティに、受賞者に参加してもらうことを考えている。

### 教育訓練委員会

- \*ケンブリッジで4月開催のユース・スクール参加者数はほどよい状態。サマースクール参加者数も前年同期に比べ好調。
- \*Examination Syllabuses (試験要領) 案に議論が集中した。原案を支部やエギザミナーに送り、5月中旬までに意見を求めることになった。

### 会員サービス委員会

- \*出版に関する基本方針案がまとめられ、検討を図ってゆく。
- \*マニュアルは、全8章すべてにわたって改訂が行なわれ、担当小委員会の最終検討会が3月15日に開かれる。サマースクール時に改訂版発売が望まれている。

### 総務財務委員会

- \*ポリッジ・メーカーのハムリンズ社が広告スポンサーになっているが、2005年以降もスポンサーになるかは不明。

### 会員制度の見直し

- \*4月の理事会で集中論議する。

### ドイツで新ブランチ

- \*ドイツのグループ(単数)から設立申請が提出され、大歓迎された。名前は Central German Branch となる予定。

### その他

- \*英国ティーチャーズ協会(UK Teachers' Association)の設立に対しては、さらに検討するよう勧告した■

## 試験制度に大幅な変更

2005年6月から実施として、試験制度が大幅に変更される予定で、本部は変更案について意見を求めています。予備試験合格者その他に変更案をお送りし、ご回答をお願いしますが、ご関心のあるかたからもご意見をいただきたいと存じます。変更案送れ、とセクレタリまでご連絡ください。

## New Year Dance 2004

バーズ・バースデイの1月25日(日)、東京赤羽会館に約90名がつどい、New Year Dance 2004が行なわれました。18ダンス中、前半の9ダンスは録音音楽で、後半は小海弘子さんをリーダーとするバンドで3時間のソーシャル・ダンシングを楽しみました。



プログラムの中には、このダンス踊ったことがない、というものもありましたが、4人のMCはウォークスルーをたくみに取り混ぜ、なめらかにダンシングを進めました。ちなみに、ダンスのタイトルから定冠詞を除き、最初の文字をつなげると・・・という趣向です。

会場の確保をはじめ、デコレーションや朝から準備を手伝っていただいた多くの方々に礼申しあげます■

## 2004年合宿終わる

99人が参加し2月14日-15日、石川島研修センターにおいて東京支部合宿が行なわれました。講師は英国からマルカム・ブラウンとピーター・クラーク、ミュージシャンはパット・クラークと支部から市川洋子さんでした。

今回はステップやフォーメーションを習うよりも、ソサエティのダンスにこだわらずにダンシングを楽しんでいただく趣向としました。参加者募集にあたってある程度のダンシング能力を求め、講師にもアドバンス・レベルはアドバンスと連絡していたため、2時間に7ないし8ダンスというペースで進みました。

ダンサーがとまどっているときだけ通訳する、というやりかたにしました。通訳でクラスの流れを中断させないため、ダンス用語ならダンサーはほとんど理解できるだろうと考えたためです。もちろん講師にはデモンストレーションを主体に指導してほしいと申し入れており、アンケート結果でもことばに原因する不満はありませんでした。

アンケート結果ではみなさん満足されたという評価です。そのなかで特徴あるご意見と委員会の考えを述べたいと思います。→(次ページへ)

\*ダンサーの能力に応じたクラス分けをしたほうがよかった。

なぜそのように感じられたのか不明ですが、当初から能力別クラスにしないとした趣旨をご理解いただきたいと存じます。

\*ジグ、リール、ストラスペイ、ホーンパイプの区別を聴かせてくれたが、これをぜひランチレターに載せてほしい。

音楽を、どうやって!?

\*夜のソシャル・ダンシングで、ダンスによってはウォークスルーをやってほしかった。

スタンダードなダンスばかりなのですが、ソシャル・ダンシングにおいてはダンサーの事前勉強も必要かと思えます。

\*いつ始まって、いつ終わったのかわからない。(はじめが必要)。

この2年間、支部イベントはダンサーが自主的に集まり、自然に解散する欧米流でやっています。起立、礼!の号令から始める日本式のやりかたから、講師の「ハロー」で開始、「サンキュー」で終わる流儀になれていただければと思います■

## 日本印象記

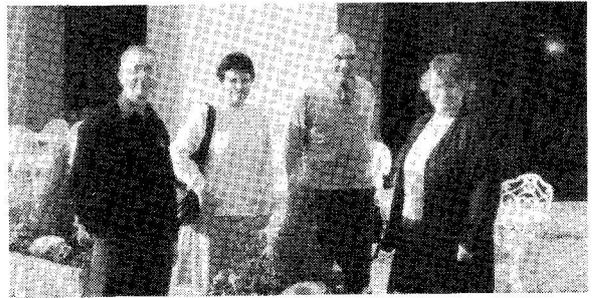
(マルカム・ブラウン)

ランチレターに載せるので日本の印象を書いてくれとトムから頼まれた。日本人はベリーグッドの一言をもらいたいようで、かれの立場に同情するよ。まあ、かれがどう訳すかはかれの問題だ。

ヨークに帰ってみんなから日本はどうだったと訊かれるが、わたしたち夫婦はこう答えている。「想像以上で、驚きで、優秀で・・・」。そして、なぜそうなのかを話し始める、というわけだ。

最初の印象がこの旅行全体を集約していたのではないと思う。成田空港の到着出口に立ったとき、そこで出迎えていたのがトムとマサノリ(佐藤雅紀さん)、東京、埼玉ランチのチェアマン2人だった。スーツケースの運搬を手伝ってくれ、エレベータにわれわれを案内し、本厚木行きのバス時刻までコーヒーショップで時間をともにしてくれた。日本滞在のすべてをとおしてこの「世話」がずっと続いた。どこにあっても、大きな荷物をかかえたわたしたちに手を差し伸べるチームがいて、ほんとうに助けられた。わたしはかつて王侯貴族とは何かを考えたことがある。そのときがそれだったのだ。

実行委員会の人たちは、すべてがスムーズに進行するよう立案し、わたしたちが経験したことだけでも、感謝されるべきである。たくさんのクラスやソシャル・ダンシングに出たけれども、プレ



ッシャーを感じたことは一度もなかった。そしてなんと変化に富んだ場所に行き、できごとに出会ったことかと思う。世界貿易センタービル(浜松町)の最上階レストランで東京港を見下ろしながら昼食をとり、埼玉スーパー・アリーナ近くの摩天楼レストランで夜景を楽しんだ。駅に向かうとき、遠くに浮かぶ富士山をながめ、氷川神社(大宮)では静謐があった。二つの博物館も面白かった。江戸東京博物館はエド村からどのように都市が発展したかを示していたし、ジョン・レノン博物館ではジョンについていろいろ勉強できた。かつて聞いたことがあったかもしれないが、わたしはみんな忘れていたんだ。

人形の町(岩槻)にも行った。人形はシルクの十二単をまとい、人形ひとそろえが7千ポンド(140万円)というものもあった。(その人形は年1回見るだけ、おもちゃにして遊んではだめだと思う)。盆栽町では樹齢千年という古盆栽を見た。わたしはその古木に“Happy Birthday”を歌ってやったよ。

スシからウドンまでの食べ物に移ろう。スシは日本最初の夕食で、日本にいることを実感した。ウドンは埼玉の合宿で味わった。シュラスコ(ブラジル風バーベキュー)では、トムいわく「オーストラリア産牛肉なのでBSEの心配はないよ」。埼玉委員会との夕食は日本最後の夜で、中国料理だったが、シェフは有名な人物でかれの顔がびんのラベルに描かれていた。われわれはここで新旧の友人に別れを告げた。



ここまでダンシングについては触れずにきたけれども、クラスで日本人は目一杯でダンスして

いたね。(たとえば、Double Triangles を 8 小節マジメにやっている感じだった。そうするべきとわかっている、8 小節のどこかを手抜きするダンサーもいるというのにね!)。ダンシングに没頭するかのように、すべてを取り込もうとしていたし、集中するのと同じくらいにユーモアがあった。とくにティーチャーが間違えたときなんかだね。日本人ミュージシャン 2 人とクラスを進めたが、ほしいと思うときにはそこにいつも音があり、いままで一緒にやったことがないのに、これはちょっとした驚きであった。もちろん彼女らは演奏と同じようにわたしの英語を即座にわかってくれた。英語を理解できないダンサーを相手に、困ったことはなかったのかいと聞かれるが、ミュージシャンと同様、どんな難関をも排除してくれる何人もの人たちがいた。まるで何年も一緒にやってきたかのようなようだった。

ソシヤル・ダンシングはじつに楽しかった。ダンサー間に結びつきがあり、ダンスを終えたときパートナーだけでなく、セットのみんなに“Thank you”を示す光景は忘れられない。(ヨークに帰ってから、わたしはなにか物足りない)。



ケン&ノコ(春日さん)とマユミ&マサカズ(長峯さん)に呼ばれ、両家で歓待された。カラオケで、わたしがマイクを持ったなんて、まったく信じられない。(運悪くトムがその写真をわたしに送りつけてきた)。マユミの家ではたたみに座ってマユミの姪御さんによる茶道を体験したが、強く思い出にのこるものだった。ヨーク・ブランチに、ビジネスで日本に何回も行った人物がいる。かれにこのことを話したら、えらく口惜しがっていた。かれは一度も日本の家庭に呼ばれたことがないそうだ。これをとって、わたしたちはたいへんな榮譽を受けたのだと感じている。

成田到着時の印象が旅行全体を象徴していた、と述べたが、なぜそう述べたか、以上でわかっていただけると思う。日本滞在のあいだ、みなさんから大変なもてなしと親切をいただいたのだ。



本筋から外れるかもしれないが、列車についての印象を略すわけには行かない。(どこへ行くにも鉄道だった)。付添いなして目的地へ行く機会が 1, 2 回あり、その経験がこの印象をたどっているように思う。トムいわく「マルカム、あすはぼくがあなたたち 2 人を日暮里駅で 10 時 19 分の電車に乗せる。電車は 11 時 19 分にひたち野うしく駅に着くから、そこで降りてくれ。タズコ(中田さん)が出迎えている」。日本人は、そうなるのがあたりまえ、と思っている。

日本からの帰り、エジンバラ発 11 時ちょうど列車に乗るつもりだった。ウェイバリー駅で聞いたアナウンスは、「申しわけありませんが、10 時 30 分の列車は運転中止となりました」。日本とは逆で、11 時の列車が 11 時 10 分に着いても、われわれ英国人は、そうやってあたりまえと思っている。

自動開閉ドア付きの清潔なタクシー、それにめちゃくちゃな道路に不可欠の衛星航法装置(カーナビ)にはおどろいた。(あとから気付いたのだが、洗浄機能付暖房便座にも)。

以上、わたしたちが体験したとてつもない印象、東京・埼玉両ブランチが呼んでくれたことに対する感謝の気持ちを、いくらかでも表現できていれらばと思う。この文章をとおして、みなさんからいただいた多くのご好意に感謝したい。

英国と日本とのあいだには、ことばや興味深かつ想像以上の文化の違いがあるけれど、スコティッシュ・ダンシングにおける結びつきは、お互いが同じ世界にいる意識をよりいっそう強くしていると思う。わたしが 埼玉のラスト・ダンシング、Pelorus Jack でへんな踊り方をしようとも(ヨークでは reel で方向を変えるたびにパートナーにちょっと会釈する)、われわれは共通することがらで笑ったのである ■

## RSCDS Bulletin No.81 の概要

p.2 本部セクレタリ、エルスペース・グレイの編集のことば。本部組織の根本変更と同じく、本ブリテンも内容を変えた。アンドルー・ケレットが編集を大いに手伝ってくれた。世界各地のランチ情報を入手し、みなさんに日本、欧州、ニュージーランドのダンシング状況を読んでいただけたと思う。これからも英国以外の記事を多くしてゆきたい。

p.3 会長マンスフィールド卿のあいさつと 2002 年 AGM ハイライト。アバディーン の 2003 年 AGM で本部組織の根本変更が承認され、迅速な意思決定と遂行がなされるようになった。女王即位 50 年にあたり陛下に 2 ダンスを捧げた。「世界ダンスの日」実施と Book 44 選考プロジェクトはソサエティの広がり の証左である。

p.4 チェアマン、ジーン・マーティンの報告 RSCDS は雇用者でもあるが、雇用契約書、就業規則などが散逸していた。これをきちんとした。会員制度見直しについては検討継続中。

p.5-7 各委員会報告 ブランチレターで報告済みのものばかりなので略。

p.8 ユーロピアン・パッチワーク 前号ブランチレターで紹介済み。

p.9 日本のスコティッシュ・ダンスの一断面(トム鳥山) 日本にスコティッシュ・カントリー・ダンシングが紹介されたのは、1960 年代中頃であった。1958-1963 年、池間博之氏は、海外における体育教育を学ぶため、米国オハイオ大学およびニューヨーク大学に留学した。池間氏は RSCDS ニューヨーク・ブランチにおいてスコティッシュ・カントリー・ダンスに出会い、その正確性、social spirit に魅惑された。2 年間のニューヨークにおけるクラスを終え、日本に帰国した池間氏は、日本フォークダンス連盟のオピニオン・リーダーの 1 人として、スコティッシュ・カントリー・ダンシングを普及するにはまず音楽が必要と考え、東芝 EMI 社に音源発売をはたらきかけた。当時英国からの輸入 LP はサラリーマンの月給の 1/5 ほどの値段だったためである。こうして 1966 年、ジミー・シャンド楽団が演奏する、The Reel of the 51st Division, Hamilton House, Monymusk, Victory Waltz, Pride of Erin および他の音楽を含む 4 枚の 7-inch LPs が、ビートルズのレコードで収益をあげていた東芝 EMI 社によってリリースされた。

録音音楽発売を機に日本におけるスコティッシュ・カントリー・ダンシングの普及が進んだ。1975 年、ミス・ミリガンの協力によりビル・クレメン

ト氏が日本に訪れ、さらにダンシングの正確性、多様性および楽しさをダンサーたちに認識させた。

1984 年、RSCDS 東京ブランチが設立された。このとき、東京ブランチの公認ティーチャーは池間氏を含む 3 名、会員数は約 100 名であった。こんにち、日本は 3 つのブランチ、27 の affiliated groups、84 名の公認ティーチャーおよび 738 名の RSCDS 会員を有している。

80 年代の RSCDS サマースクールでは 2、3 人の日本人が参加するだけであったが、いまや毎年 30 ないし 40 名の人々が 13 時間のノンストップ・フライトにもめげずに参加し、そして 2003 年サマースクール・ミュージシャンの 1 人は日本人であった。何百とあるインターナショナル・フォークダンス・グループのボールにおいて、スコティッシュ・カントリー・ダンシングはメジャー・パートの 1 つとなっている。

日本人は 1 年中踊る。ほとんどの会場にエアコンがついているが、汗みずくともわれわれは踊っている。東京圏においては無数のダンス(例：フラ、スパニッシュ、アメリカン・スクエア、インターナショナル・フォーク、ボール・ルーム) およびスポーツ・グループがあり、公共の会場の予約は抽選となっている。酷暑期間にクラスを中断すると、そのグループの抽選参加資格が取り消されることがある。この抽選方式が長期的なブランチ行事計画の立案を妨げ、外国人ティーチャーおよびミュージシャンの招聘を困難にしている。もし、われわれがある行事の 45 日前にチェアマンのジーン・マーティンに来日を依頼したとしたら、彼女の答えは明白であろう。われわれはいろいろな名前を駆使して会場確保につとめている。

日本の 3 ブランチの一般的な状況は少数の男性ダンサーである。スコティッシュ・カントリー・ダンシングをものにするにはある程度の時間を要する。通勤に片道 90 分を要し、週末にはビジネスに関連するゴルフにつきあわされる男性たちは、ダンシングのための時間がないのかもしれない。しかしながら、われわれは男性ダンサーを増やす努力をつづけている。

日本人ダンサーにとっての難問はことばの障壁である。であるから、日本におけるベスト・セリング・ダンス・ブックは、ピリング・ブックである。日本でこの本を持っていないダンサーは、地図なしに山に挑戦しようとするクライマーと同じといえよう。しかしながら、ティーチャーたちはピリング・ブックが要約であることを十分認識し、ティーチングにあたっては RSCDS ブックおよびマニュアルに従っている。みなさんが日本人

にダンスを指導するとき、デモンストレーションとともに、クリヤで大きな声、そしてゆっくりしたことばを使っていたきたい。

東京ブランチは2004年に20th Anniversaryを迎える。世界のブランチの中ではまだ中学生かもしれないが、われわれは日本ならびに東アジアにおいてスコテッシュ・カントリー・ダンシングの普及およびそのスタンダードと social spirit の向上にさらに努力をつづけている。

p.10 ニューゼalandが1ブランチのわけ(メリ・ロニー) ペンギン社のNZ地図帳(1999)は、この国を主要大陸からいちばん遠い国と称している。だからこそ、われわれが他の国と密な関係にある理由かもしれない。最も近い国はタスマン海を2,600キロへだてたオーストラリアである。南の大洋中であって、地図でチラッとやりすごされるほど小さくはない。国はマオリ語でアオテアロア、「長く白い雲の国」という意味で、南緯34度から47度にある。

各ダンス・クラブは北島の北端、南緯35度から南島の南緯46度にある。1つまたは2つの地区ごとにクラブがあり、1,900キロという距離にもかかわらず、すべてニューゼaland・ブランチに所属している。

他の国から隔絶していることが、小さく分散するよりも1つのブランチにまとまることを促したといえる。距離をこえてダンサー同士の深い交友関係が期待されており、バンドもこの50年に拡充がはかられた。

クラブが散らばっているのに、なぜ1ブランチなのか? 2003年にウェリントン&ホークス・ベイSCD協会が50周年を迎えたが、同協会は6つのクラブが核になって生まれたものである。

われわれのダンシングの主体は国中に散らばったクラブにある。クラブは中核の数人によって作られ、ボールやパーティに加わるようになると、だんだんとその基準に合わせたいと思うようになる。クラスはいつもあとで、クラブで楽しむことが先なのである。

連合化を促す第2の特徴は、NZという国が共同体の結成を好むということにある。ウェリントン&ホークス・ベイSCD協会が生まれて1年もしないうちにサマースクールが組織され、オタゴ地方とサウスランド地方にもSCD協会が作られ、まもなく国全体にこのような組織化が進んだ。われわれは気兼ねなくサマースクールに参加し、クラブ間で訪問を行ない、(小さいグループ、はるかなグループにとってはありがたい)出張指導を行なうようになった。

ウェリントン&ホークス・ベイSCD協会の第2回サマースクール(1955/6)のときだったか、NZSCD協会設立の気運が国全体に生まれてきた。反対論はどこにもなかったが、規約・細則をめぐる調整に長期間を要したのはしかたのないことであつた。頭に血が上ると、そこからは何も生まれない。

しかしながら、RSCDSの目的を基本として全会一致で規約・細則が採択され、1957年1月の第3回サマースクールでNZSCD協会が生まれた。激論ののちに作られた規約は、各クラブの中心的な役割と、6つの地域代表による評議会の設置を盛り込んでいた。

われわれなりにダンシング、指導、勉強をやっていたが、1964年、ミセス・フロレンス・レスリーがこの国に移住してきて、NZのSCDにさらに大きな未来が開けることになった。彼女は卓越したティーチャーであるばかりでなく、われわれにエジンバラ地区とのつながり、本部とのつながりを教えてくれたのである。彼女は現役の代表エグザミネーターで、サマースクールに続いてNZで最初の予備試験クラスが開かれた。さらに重要といえるのは、ブランチ化への歩みが始まったことである。NZ全体が1つのブランチとなることについて、当時どんな疑問があつたか、わたしは思い出せない。NZSCD協会からRSCDS NZブランチへの移行は、すんなりと行なわれた。確かに、移行にあたっての概念は単純だった。ブランチ化はスコットランドの一部になること、とみなされていたのでは、と思う。ブランチ史は「ミセス・レスリーは移行における困難性を除去し、NZダンサーにRSCDSの組織を説明し、RSCDSに対してはNZの問題解説をいづれも根気よく行なった」と記述している。1967年、NZのブランチ化申請が承認されたのである。独自性が失われたのは心残りであつたが、ごく細かなことであつた。

当時のいきさつははるか昔のこととなり、スコットランドでもNZでも大きな変革があつた。2003年に地域代表による評議会は解散したが、NZ全体にかかる重大な案件に対しては地方クラブとともに地域代表が審議に参画することになっている。新たな執行委員会(旧評議会よりも分散化・多数化した)の委員は、特定の地域においてなすべき仕事(宣伝、会員登録、計画)を受け持っている。委員はカイトアイア(北島)からインバカーギル(南島)まで、会員の満足が得られるよう活動すると思う。また、遠くにあつても、われわれは公平な判断力で規約変更後のスコットランドのやり方を注視している。

小さなブランチに分れるべきという不満により、地域代表を辞める人がときどき出てくるのはしかたのないことである。NZ北島の会員は、南

島を除いた組織という提案に賛成を投じるのでは、と何人もが心配したが、新規約のもとで行なわれた最初のAGMでそのような雰囲気は感じられなかった。

NZ サマースクールで外国からの参加者を迎えるけれども、よく訊かれるのは、その人たちと同様にNZも小さな所帯になったら、ということである。でもその人たちは、そうすべき理由を述べる事ができないのである。小さくなったからといって本部会費が安くなるわけではない。(NZドルと英ポンドとの値打ち感覚の違いにより、会費額が不満で、RCSDS 会員数の減少を招いている)。

細分化は全国組織維持にかかる費用を減じるかもしれないが、全国規模の活動がなされなくなるだろう。その活動とは、継続開催が要求されているサマースクール、ジュニア会員向けの大会、ブック、レコード、ギフトのショップ、年会報とニューズレターの発行、本部とのパイプ役である。多数ブランチへの分散は混乱、とくにわれわれの一貫した目的の亡失につながる。

個人的にも、わたしは全国ブランチの会員でありたい。本部方針に納得できようと思えばよい(唯々諾々と従うことがよい結婚生活ではない)、スコットランドとの強いつながりが感じられるからである。そしてNZの仲間と離れたくない-50年以上にわたりつちかかってきた、長くあるいは短いつきあいのすばらしい友達である。

スコットランド人兼キウイ人であることは心地よく、人生の最良のありかたのひとつである。

**p.11 スコシア号百年祭(ローズマリ・ハーヴィゴードン)** 昨年の本部ブリティンでウィリアム・スピアズ・ブルースの業績と、ソサエティと王立スコットランド地理学協会(RSGS)との共同行事を記した。

2002年10月30日はこの共同行事のハイライトであった。グラスゴー市議会ホールでのレセプションに関係者が出席した。正副のチェアマン、ダンス創作者のロイ・ゴールドリング、出版委員会のメンバーである。来賓として出席されたのはプリンセス・ロイヤルのマーガレット王女、モナコのアルベール皇太子であった。

市や地理学協会の幹部、ブルースや乗組員の家系の人も出席し、オーストラリア、NZ、カナダ、ノルウェイからの参加者もあって、ブルースの業績をたたえた。

当日スコシア・ブックの7ダンスが披露された。最初のダンスは地元小学生が踊り、ついでグラスゴー・デモ・チームが踊った。演奏はピーター・シャンド、モリー・ラザフォード、ニール・コーブランドであった。

スコシア号の子孫とも話すことができ、すばらしい夕べであった。

**p.11 セント・アンドルーズで託児(ジェレミー・ヒル)**

サマースクール2003の第4週でセント・アンドルーズ大学のスポーツ・クラブ、子連れ参加者、ソサエティにとって最初の行事が行なわれた。大学スポーツ・クラブは8月に子供向け行事を運営しているが、この年、活動をサマースクール第4週まで延長し、ダンス・クラスの時間帯に子供たちの面倒を見てくれることになった。大学看護師も加わって、3か月の乳児から預かってくれる。

この年は数組の夫婦が子供と一緒にクラスを楽しんだり、こどもを看護師に託したりしたが、今後これが定着してほしいと願っている。2004年も実施が検討され、第3週になる見込みである。くわしくは本部に問い合わせいただきたい。

[訳者注：筆者は3人の子持ち]

**p.12-13 ユース・ウィークエンド・ウェスト—2003年5月、バンクーバー**

**スコットランドとカナダとのつながり** カナダのユースたちは2002年の第1回イースター・スクール(スターリング市)に参加できなかったが、やがて参加の気運が盛り上がってきた。本部ユース委員長フィオナ・タンブルはカナダのリーダー、サラ・ケル(ビクトリア支部)の連絡に答え、同じような行事をカナダ西部でやったら、と勧めた。サラとジェミー・グレアム(米国ワシントン州)との18ヶ月の準備作業が始まった。

バンクーバー支部とTACが北西太平洋地域および全世界に参加者募集をバックアップした。本部はじめ、関係者各位に感謝する。

**ユースからの感想(クリスティン・ダイク&シェラ・マーフィ、ウィニペグ支部)** 支部委員会とティチャーからユース・ウィークエンド・ウェストに行くよう勧められた。16歳から30歳までのダンサーが対象とのことだった。

ジェリコ・ビーチ・ユースホステルに着いたのは夕方、ケイリが予定されていた。クラス会場の体育館、ソーシャル・イベント用のホールとは歩いてゆける距離だった。浜辺にはスキップ・チェンジで行けた。

ケイリ・ダンスのプログラムはダンカン・マッケンジー(バンクーバー)が立案し、シンプルで元気なダンスで、ダンカンはフロアにいる全員が踊らなければダメと言った。途中で才能を披露する時間がとられ、わたしたちはハードシューズでオタワ・バリー・ステップダンスを踊った。その他の演技ではプレイヤー・バリーからやってきたハイランド・ダンスグループによるオリジナル・ダンス、一輪車でのフィドル演奏、ケープ・ブルトン・ダンスがあった。

土曜の夜明けとともに実際のレッスンが始まった。ティチャーはレベッカ・ピーターズ(カナダ、ラングリー)とブルース・ハーボルドである。参加者はビギナーとインターミディエイトに分かれ、それぞれ2レッスンを受けた。

### TAC が立案—RSCDS AGM のダンス・プログラム (カザリン・ショウ)

昨年 TAC (欧米人はタックでなく、ティエシィと発音している) は、ソサエティに本部 AGM ダンスのプログラムを立案させてほしいと依頼し、了承を得た。検討を重ねたのち、TAC 執行部は会員の国際性を示すよい機会であり、TAC 会員が作ったダンス、あるいは TAC 会員に関係するダンスを提出することにした。下記のとおり、最初のトラディショナル・ダンス The Duke of Atholl's Reel を除いて会員創作のダンスが踊られた。この中に non-RSCDS ダンスが 3 つある。The Saint John River はカナダの大地を現し、Bobby Brown's Canadian Breakdown はすばらしいバンドリーダーに捧げられたもの、Monterey Mixer は RSCDS エギザミナーでもある、会員のエリナ・バンディグリフト作である。当夜の MC は、これも会員のキース・パークとアラン・メアがつとめた。AGM のあと、ソサエティ・チェアマンから丁重な感謝の手紙を拝領した。

|                                     |     |   |
|-------------------------------------|-----|---|
| Grand March                         |     |   |
| The Duke of Atholl's Reel           | 32J | 16-3  |
| Back to the Fireside                | 32R | 38-4 (Roy Goldring; TAC に捧げられた)                       |
| Bedrule                             | 32S | 33-7 (Betty Grant; Toronto, Ontario, Canada)          |
| Joie de Vivre                       | 32J | 39-2 (Irene van Maarseveen; Pretoria, S Africa)       |
| Dancing in the Street               | 32R | 42-4 (Tom Toriyama; Tokyo, Japan)                     |
| From Scotia's Shores We're Noo Awa' | 32S | Lft-8 (Bob Campbell; Oakville, Ontario, Canada)       |
| Follow Me Home                      | 32J | 38-3 (Ellie Briscoe; Alexandria, Virginia, USA)       |
| Fife Ness                           | 32R | 4/78 (Mary Brandon; Woodland Hills, Calif, USA)       |
| The Sauchie Haugh                   | 32S | Lft-29 (George Emmerson; London, On, Canada)          |
| Quarries' Jig                       | 32J | 36-3 (Kent Smith; West Hartford, Connecticut, USA)    |
| Bobby Brown's Canadian Breakdown    | 32R | Lft (Bob Miller; Toronto, Ontario, Canada)            |
| Monterey Mixer                      | 32R | SF Collection 2 (Elinor Vandegrift; Kenmore, Wa, USA) |
| Wisp of Thistle                     | 32S | 37-4 (Pat Kent; Dartmouth, Nova Scotia, Canada)       |
| A Jig for Mrs Dunn                  | 32J | Children's Book (会員の Norah Dunn に捧げられた)               |
| The Hamilton Rant                   | 48R | 22-2 (Bob Campbell; Toronto, Ontario, Canada)         |
| The Saint John River                | 32S | N B Collection (Prudence Edwards; New Brunswick, Can) |
| Miss Allie Anderson                 | 32J | Lft-16 (Mina Corson; 会員だった故 Anderson のために)            |
| The Reel of the Royal Scots         | 32R | Lft-27 (Roy Goldring; Ilkley, W York, UK)             |

(From TACTALK of Vol 28, No.4 March 2004)

昼食後にソサエティの資金援助に対する感謝が述べられ、選択クラスに移った。ステップダンス初歩クラスと SCD テクニック・クラスがあり、わたしたちはテクニック・クラスに加わった。パンフレットにあった、ブルース一流の「動きの芸術」をいくらかでも向上させることが望まれた。

Woo'd and Married and A' でチームワークが呪文になった。ブルースはこのとき手を使うことを禁じたのである。(ブルース夫人によれば、このタイトルの別称は Weird and Harried and Odd 気味が悪くて人を苦しめる変なやつ、とのこと)。みなさんは手を使わずに pousette を踊ったことがあるだろうか? それは予想もしないことであり、一騒動を起こすことになる。

その日は参加者によるソーシャル・ダンシングで終了したが、そのエネルギーは人をとりこにさせるものだった。lead down and up をこれほど熱狂的に踊ったことはかつてなかった。大草原を疾走する駿馬の心だった。つぎのフォーメーションに移るためトップにもどるのだけれど、これがどうやってできたのか不思議である。

日曜日はレギュラーな 1 クラスと、イングリッシュ・カントリー・ダンスかウォークスルー (午後のティータイム・ダンス会用) の選択クラスで、わたしたちは後者に参加した。びっくりしたのは、

このウィークエンドがダンスの始まりという人がいる、と聞いたときである。これからの人生がどうあろうと、その人たちが SCD をずっと続けていってほしいと心から願っている。

ティータイム・ダンス会は SCD 関係者の全員に開かれ、わたしたちが勉強した成果を示す絶好の機会だった。ウォークスルー教室はコミュニティ・センターの芝生で行なわれ、とくに The Bees of Maggie Knocker ではがんばった。このウィークエンド全体そしてティータイムを取り仕切ってくれたのはバンクーバー支部の会員だった。

ダンスの数が多すぎてオミットされたダンスがあったのは残念だったが、がっかりしないようその晩、浜のバーベキューでもダンシングが続けられた。フィドラーがいたのは幸運だったし、セットをまとめるため、数人の臨時ダンサーを捕まえられたのもよかった。月曜日はビクトリア州記念日で、ホステルの朝食はパンケーキ、そして最後の合同クラスとなった。夢中でいるうちに終わりがやってきた。

バンクーバーの人たちと過ごした日にちが懐かしい。ウィークエンドは本当に信じられないほどだった。コースト・ストリング・フィドラーズとバンクーバー・フィドル・オーケストラの人たちはソーシャル・ダンシングでダンサーの元気をかきたてる音楽を提供してくれた。セント・アンド

ルーズのジェイムズ・シニア靴店からやってきたニック&メリッサ・チャーチルは用品で皆を(わたしたちも)うっとりさせた。参加者が示した熱意はすばらしく、わたしたちもウィニペグに帰ったら、どのようにユースをこの世界に取り込んだらいいか、いろいろなアイデアを得た。

わたしたちはイベントを大いに楽しみ、つちかわれた交友は宝である。次回ワークショップが行なわれるとき、あなたたちはまだユース年齢よと言ってくれるなら、また参加するだろう。

**ティーチャーの感想(ブルース・ハーボルド、サンフランシスコ支部)** 参加者中ちょっと年食った香辛料役の1人として、感想を述べよう。

わたしはまだ目のくらむ、もうろうとした(daze and haze) 楽天主状態にある。もっとも忘れてはならないのは、20代の人たちによってウィークエンドが企画、準備、実行されたことである。参加者と実行委員は同じユースホステルで寝起きし、ともにひとつの共同体を作っていると感じた。わたしはこれが成功のもとと思っている。

実行グループの責任感とプライドが明確に示されていた。バンクーバー支部のダンカン・マッケンジー、エド&ローナ・モーニンらも手を差し伸べたが、行事全体はサラ、ジェミー、ノームたち若手のグループによる非凡なチームワークの成果だった。もし他でユース・ワークショップが計画されるのなら、同年齢のグループがやったほうがよい、とわたしは助言したい。

まったくのビギナーによるグループがあつて、彼らは2日間の厳しいレッスンを受けることになる、これはこの行事にふさわしいだろうかと初めは思った。最終日のプログラムには The Bees of Maggieknockater と The Minister on the Loch があつて、大丈夫か? いままでの経験からいって、ビギナーは欲求不満と過剰な負担を感じるのでは、と心配したのである。それはまったくの乗り越し苦勞だった。新人を取り込んだ若いダンサー集団は、エネルギー、バネ (Petronella はクラスとパーティ両方でアンコールされた)、新人への熱心なヘルプでもってやり遂げたのである。

わたしの心に残る思い出は、夕暮れ後のパーベキューと、浜辺でヤング・フィドラーの音楽に合わせみんなが踊るのを見たことだった。その姿は駐車場の車のヘッドライトによって輝いていた。

第1回北アメリカ・ユース・ウィークエンドはすばらしい成功を取めた。それに携わった人々と参加者は、世界に広がるSCDの大きな恩恵を実感したと思う。SCDの将来を懸念しているわれわれは、かれらに三つの大きな喝采を捧げなければならない。

訳者注. ユース・ウィークエンド参加者数などはブリティン本文を参照ください。

**p.14 2003-2004 ソサエティ活動指針** 本紙最終ページ参照。

**p.15 コードは一つ?二つ?** 前号ブランチャレターで紹介済み。

**p.16-18 ランサーという踊り** 長文のため次号ブランチャレターで紹介します。

**p.19 Book 44 プロジェクト** 前号ブランチャレターで紹介済み。

**p.20-21 各ブランチャの記念行事** ベリク・アポン・ツイードー2003年2月に50周年を祝った。114名が記念ボールに参加 ▶ ボーンマスー自慢はヤング・ダンサーたち。1986年当時のヤングスター2名がことしティーチャー試験に合格した ▶ ブライトンー20-30代のヤング・ダンサー育成をはかっている。スクール参加の助成金を出している ▶ カナスティー2003年に50周年を迎えた。10月の年次ボールで大々的に祝う ▶ ダンズ&ディストリクトー60周年を祝うボールには共同創立者や本部チェアマンも出席してくれた ▶ イースト・ロジアンー2002年11月に50周年ボール。創立者たちも出席してくれたが、みな御年90何歳であった ▶ フォーカーカー公会堂で70周年ボールを開催した。55年間セクレタリを務めてくれたミス・フランシス・マーティンも出席 ▶ ヒューストン&ディストリクト(米・テキサス)ー25周年だった。子供クラスを継続。ティーチャーズ講習会にはロン・ウォーリスとミュリアル・ジョンストンを呼んだ ▶ レスターー写真のみ ▶ メディシン・ハット(加・アルバータ)ー写真のみ ▶ ニューヘブン(米・コネチカット)ーミュージシャン講習会を行ない、ボールで演奏した ▶ ニュージールランドーブランチャ組織の変更を行なった。たくさんのライブ音楽でサマースクールは大成功 ▶ オタワー新規の会員獲得を推進し、減少化をくい止めている ▶ プレトリアーハイライトは30周年ボールだった。ダンスブックを出版した ▶ サウス・ウェイルズー毎年6月にローマ帝国時代の円形劇場でダンス・フェスティバルを開催している。ブランチャ制作のCDとブックの収益はユース基金にしている ▶ ウィニペグ(加・マニトバ)ー40周年記念写真のみ。

**p. 21 ミス・ミュリアル・ギブソン** 元本部セクレタリ(1975-1988)のミュリアル・ギブソンが90歳を迎え、本部事務所でパーティが開かれた。

p. 21 ハムリンズ社 2002年にRSCDSはオートミールとポリッジ麦のメーカー、ハムリンズ社と最初の広告スポンサー契約をかかわした。契約は各スクールに適用され、スクール資料にハムリンズの商標が印刷される。サマースクールの無料バック中のサッシュはハムリンズの提供であり、ショップにおいて同社製品を販売した。同社の販売政策の一部としてBBCラジオでサマースクールの模様が放送され、Dancing in the Streets 2003の報道用写真撮影が行なわれた。

ソサエティはこの契約の延長を期待している。ハムリンズ社製品は100%スコティッシュであり、ソサエティの考え方にもマッチしている。ハムリンズ社のスポンサーシップを多とするものである。

## p. 22 CD 批評

The Skye Collection of SCD Volume 2 (ジョン・ローリー) 6年前に発売されたVolume 1の続編で、スカイ島ブランチのメンバーによる8ダンスが収められている。ダンスには Double Triangles, Poussette, Rondel, Grand Chain のようなスタンダード・フィギュアは入っていないが、Promenade, Allemande, Knot, Targe が含まれている。

CDはコリン・デュアー・バンドによるもので、Volume 1でドラムスをやっていたゴードン・スミスがここでもよいテンポを刻んでいる。バンドの演奏はトップ・フライトしている。曲はトラディショナルとモダンが程よくミックスしている。The Kilt is My Delightがストラスペイで演奏されているのが面白い。

### The Scotia Suite of SCD (ロバート・マックイ)

7つのダンスはロイ・ゴールドリング作、曲はすべてミュリアル・ジョンストンというブックで、ダンスはアイデアに満ちているが、ロイの他のダンスと同じく、どんなレベルのダンサーにも楽しめるものである。ミュリアルの音楽には常に新しいアイデアが盛り込まれている。しかし、基本はトラディショナルである。

ダンスは各地の1日あるいは週末のスクールで教えられており、南部イングランドではダンス会プログラムにも入っている。ブックの値段はふつうよりも高いが、作りはりっぱであり、写真も鮮明、ダンス説明文と楽譜も読みやすく、値段相応にできている。

わたしは Bruce's Men と The Piper and the Penguin が好きである。曲とダンスもマッチしている。Antarctica Bound と Scotia Sea もよい。

CDはニール・バロン・バンドが演奏している。ロイとニールはいろいろなところで一緒に活動しており、このCDはダンスと完全に對になっている。一定ですばらしいテンポで、生き生きとした輝く音になっている。このCDで踊ると楽しい。Antarctica Bound の第2曲、アダム・レニー作

の"Elizabeth Donald, Moss-side"でもって、20年前だけでも、演奏し、踊ったことがある。Bruce's Men と Speirs Bruce-The Pole Star のオルタナティブ曲もいい。とくに後者のロバート・マッキントッシュの2曲はうれしくなる。

2つのストラスペイはやや遅いが、ほとんどのダンサーはわたしの意見に同意しないだろう。最初に弾いたときわかったことだが、ブックでは The Piper and the Penguin をどのように演奏したら88小節になるか示していない。ニール・バロンはオリジナル32小節+オルタナティブ32小節+オリジナル24小節(ABB)でやっており、これによいと思う。

CDにはパイプ演奏が入っている。この方面に詳しくないが、よい演奏と思う。最後に、スコットランド国立ユース・オーケストラによるゴードン・マクファーソン作曲の"South"は冷たく、広大な大陸を感じさせる現代音楽である。いい演奏だが、いくぶん長い。しかしながら、聴くに値するCDである。

p. 24 寄付受領報告 受領報告とともに、ミリガン基金で、今回初めて主要授与先が公表されている。

p. 25 セント・アンドルーズ市から感謝状 ソサエティ80周年と、長年の関係を記念して市(町か?)から感謝状を受領した。マード・マクダナルド氏(マクドナルドではなく、これが普通の発音に近いようだ)とアーチャー・ストラハン氏が市を代表し、サマースクールのディナーで手渡された。ストラハン氏は一時期セント・アンドルーズ大学で体育学を勉強したことがあり、ミス・ミリガンをよく覚えているとのことだった。

## p. 26 陛下にダンスを進呈(エルスペース・グレイ)

2003年7月3日(木)、アラン・マクファーソンとともに、戴冠50年を記念する3ダンスを陛下に捧げた。

陛下はダンスのタイトルにたいへん興味を示され、Book 43にその3ダンスが含まれて世界中で踊られることをとても喜ばれた。陛下はスコティッシュ・カントリー・ダンシングに広範な知識をもたれており、ソサエティからその名誉総裁への献納を喜んでおられた。

p. 26 無名の星に命名 みなさんは双子座にある無名の星が"Jackie Johnstone and John Drewry"と公式に名付けられたのをご存知だろうか。命名したのはダンフリーズ支部のクリス&ベッツィ・マクスウェルで、この50年来モーランドの合宿で教えてくれたジャッキー・ジョンストンとジョン・ドルーリをたたえてであった。

マクスウェル夫妻は米国カリフォルニアの「スター・ファウンデーション」のウェブサイトを見て、存在が知られているけれども無名という星に

命名できることを知ったのである。

合宿を記念して、ドルシー&ポール・ボンドが“The Double Eighty”というダンスを作り、クリス・スチュワートが曲を作った。(ジャッキーとジョンはともに 80 歳)。わたしも星になりたいね。

#### p. 26-27 追悼記事

**ビル・アイアランド(1924-2002) (オーエン・メイヤー)** ビルの生まれと育ちはグラスゴーである。かれはジョーダンヒル・コレッジで体育を教え、ミリガンからスコティッシュ・カントリー・ダンシングを学んだ。1945 年、イングランド・サリーのウォリントン・グラマースクールに移り、終生各種の競技(とくにラグビー)と、ときにはハイランド・ダンシングを教えた。ロンドン支部に加わり、まもなく週に数回、クラスで指導するようになった。1950 年に支部デモンストレーション・チームを担当するようになり、約 50 年そのティーチャーをつとめた。かれはチームとミュージシャンに高度なスタンダードを求め、かつかれの振り付けは革新的であった。ブランチ委員会の忠実勤勉なメンバーで、チェアマンを多年つとめた。サマースクールではスタッフの上にでんと座る人物とみなされ、ケイリの司会ぶりは有名であった。世界中の講習会、合宿で指導し、ソサエティの派遣大使として敬愛された。後年、かれはロイヤル・バレエ・ジュニア・スクールでスコティッシュ・ダンスを指導した。

たくさんの会員がかれの思い出を心に残しているが、その一人、ジェニファー・ウィルソンに思い出を語ってもらおう。

**ダンシング・マスターとともに (ジェニファー・ウィルソン)** 「さてジェニファー、道でショウをやるとするか」これがクラスを始めるときのビル・アイアランドの言葉でした。恐ろしかったか、ですか? そう、クラスとミュージシャン両方にとってね。ハードワークだった? はい、とつても。でも見返りはちゃんとありましたよ。

「鬼のデュオ」として知られるようになりましたが、わたしたち 2 人は 30 年以上にわたり、かつてない結びつきでダンサーの前に現れたのです。

クラス開始から数分ですべては音楽で動き、音楽に重きがおかれるのです。ビルは音楽にあわせてエクササイズ(ストレッチ)、ステップ、フォーメーションを作り上げる名人で、音楽と一体になってそのダンスの光と影を体験させ、説明を歌にできるときは歌い、クラスを呆然自失の状態にさせました。

スコット・スキナーのストラスペイ、とくに“Dr McHardy”と“Mr Martin”が好みで、微笑はダンサーたちがきちんと反応しているときに浮かびます。ウィリアム・マーシャルのジグのデリカシーも愛していました。かれは“Mr Morison of Bognie”が好きで、ダンサーに踊り方を教えているとき、

きちんと演奏するようあれこれ指示を出すのでした。クラスでは終了まで目を輝かせていました。かれがダンサーに言っていたのは、たとえば“The Mairrit Man’s Favourite”なら、これを仕上げるのがわれわれの責務、ということでした。そこでみなさんがよくご存知のようにわたしはおたまじゃくし手法でリール数曲をさっと演奏し、だれてきたクラスをシャキッとさせ、腫れてきた脚を忘れさせるよう努めたのです。

ビルとわたしの間ではほんのすこしの言葉でコミュニケーションがとれていました。頭の振り、視線の上げ下げで何を言っているかわかり、“Charlie”の一言は“Come o’er the stream, Charlie”を指し、“the toon”は未知の曲のことでした。きびしい仕事でしたが、クラスが楽しんでいるのを見てわたしも満足でした。ビルだけが表現できた熱情があったからこそ、音楽とダンスが生きていたのです。

ビルはいつも最適のやり方で最大の賛辞を言ってくれました。長い間セント・アンドルーズや海外でビルとともに働いたのは光栄でした。とてもユニークなパートナーシップを、たくさんのダンサーは忘れないでしょう。「ビル、わたしの“Mr Morison”を聞いたら、すこしでいいから天国で踊ってね」。

[訳者注. 上記の音楽はつぎの録音にあり]

Dr McHardy – RSCDS Miss Milligan’s Strathspey (Bobby Crowe) の第 3 曲。

Mr Martin – RSCDS Fair Donald (Bobby Crowe) の第 3 曲。

Mr Morison of Bognie – Mr Morison (Green Ginger) の第 1 曲。

Come o’er the stream, Charlie – RSCDS Waltz Country Dance (Neil Barron) の第 1 曲。

**ジーン・イエーツ(ジーン・マーティン)** ジーンはソサエティで最長期間のエギザミナーで、任命は 1963 年であった。エギザミナーとして世界各地に飛び、いちばん終わりが 1999 年の北アメリカだった。3 年前に病を得るまで、サマースクールをはじめ、世界で指導した。

各ダンスフェスティバルで審査員をつとめ、Imperial Dance Teachers’ Association のエギザミナーでもあった。いつも若いメンバーを励まし、この秋(2002)、曾姪のサマンサとレベッカがアバディーン支部子供クラスに登場したのをことのほか喜んでいて。

ジーンは 15 年以上カナダで暮らし、その縁で ECM におけるオタワ支部の代表をつとめた。亡くなる直前まで電子メールと電話の数々が大西洋を往復し、カナダのメンバーの悲しみは深い。

ブルース・フレイザーがジーンと初めてあったのはカナダであった。ブルースは、背丈 1.8 メートルのレディが、「あと 1 インチ伸ばして!」とクラスを取り仕切っていたのを思い出すという。

かれはそのあとそのレディの隣に立って、彼女がなんと小さいかがわかり、じつに驚いたという。ブルースと同じように、たくさんの人たちが「あと1インチ伸ばして！」とハッパをかけられた。ジーンは才能を引き出すティーチャーだった。批評は常にプラス思考であり、何が悪いかではなく、もっと良くするにはこうしたほうがよい、というものであった。グッド・テクニクを主張しながらも、クラスが楽しくなるように心をこめ、そしてダンスへの愛情を他の人に伝える能力を持っていた。

アパディーン支部とソサエティにおけるジーンの途方もない働きは、ずっと思い出されるであろう。彼女は本物のサービスを行ない、そして彼女がいないことに気づいて、人はさびしく思うにちがいない。

マーガレット・パーカー(アレスター・エッキンヘッド) マーガレットは健強な人であった。エアシャー支部の一人として、彼女は支部活動を熱情をもって推進した。大人のクラス、ダンス会、子供クラス等々である。支部で指導し、小学校教師として学校におけるダンシングの普及につとめた。SCD への不断の関心は支部のチェアマン、のちに会長に推挙されたとき、はっきりと示された。ECM におけるエアシャー支部代表を数年つとめ、1982年、RSCDS チェアマンに選ばれた。

在任中、通常の責務のほかに彼女は積極的に各支部、各クラブを訪れ、RSCDS に地方の意見を反映することに努めた。エア音楽祭の SCD セクションを支援し、ダンス部門の責任者となった。

ソサエティは彼女の貢献に対し功労者賞を贈った。マーガレットは親しみのある仲間、わたしは多くの旅に同行し、ダンス会、ボールとともに踊ったが、とくに彼女のために作られた Margaret Parker's Strathspey は印象深い■

## ダンス会立案者と MC へのヒント

(Tom Toriyama)

RSCDS のマニュアル第8章にダンス会立案者と MC へのヒントが述べられている。どのグループでもダンス会を定例行事としており、このセクションは読むに値するのだが、指導者試験でこのセクションからの出題は99%ないため、これを本気で読む人は95%いない。このセクションを参考にしながら、日本のダンス会のあり方を考えてみたい。

まず MC という言葉であるが、辞書を引いて日本語訳を調べたという人を聞いたことがない。MC とは Master of Ceremonies の略で、そのとおり司会者の意味であるが、Master であるからして、たんなる進行役以上の技量・責任が要求される。これについては後述する。

日本ではパーティと言っているが、本家英国ではマニュアルにあるとおり Dance ダンス会である。パーティとは、飲み物片手に談笑する催しを言う。ダンス会には広い意味と狭い意味があり、広い意味ではボールを含むすべてのソーシャル・ダンシングを言う。狭い意味をとるなら、カジュアルな服装で気軽にソーシャル・ダンシングを楽しむ催しである。ではボールとはなんだろうか。「大舞踏会」に相当し、ダンス会よりも格式ばった催しと言えよう。

ボールの条件とは、

- \*男女とも盛装(正装にあらず)
- \*ライブ音楽
- \*食事・ワインも出る
- \*ウォークスルーはない

であろう。したがって日本ではボールに匹敵する催しは、まずないといえる。

さて、本筋にもどろう。(太字はマニュアル訳)

スコティッシュ・カントリー・ダンシングにおいて重要なのは、ダンサーとミュージシャンに最大の喜びを感じてもらえるよう、プログラムの構成と MC の任命に注意深い考慮を払うことである。

プログラムの立案にあたっては、ストラスペイ、リール、ジグの配分に注意を払わなければならない。ダンサー、ミュージシャン両方ともソーシャルな雰囲気より高める、リズムの変化が楽しめる。2カップル、3カップル、4カップル・ダンスの組み合わせにも、かつロングワイズ、スクエア、ラウンド・ザ・ルームのダンス形式にも配慮しなければならない。たとえば、4カップル・ダンスが多すぎると数人のダンサーがいつもあふれ、そういった人たちの楽しみを奪うことになる。プログラム最後のダンスを選ぶとき、この点を十分考えなければならない。

ここまではどのグループもきちんとやっている。どのようなレベルのダンスを選ぶべきか、マニュアルには記載がない。わたしが言いたいのは、グループの身の丈に合ったダンスを選んでほしいということである。会員さえ踊れないような難度の高いダンスをプログラムすべきではない。また、ダンサー自身が思っているほど、ダンサーは踊れないことも、立案者は知っておくべきである。

プログラムがきまったなら、そのコピーをバンド・リーダーに送らなければならない。そのとき、各ダンスの名前とともに、リール、ジグ、ストラスペイの区別、および必要とする音楽の長さ(例:8x32 か 4x32 か)を連絡しなければならない。音楽のソース(源)を示し、バンドにオリジナル曲を演奏するよう依頼する。録音音楽を使う場合は、正しい音楽を使用することが大切である。正しい音楽がないとき、代替の曲はそのダンスに合ったリズム(リール、ジグ、ストラスペイ)、ならびに長さでなければならない。

2カップル・ダンスの場合、6x32で演奏されることがあるけれども、伝統にのっとり8x32、

4カップル・セットで踊られるべきであろう。

ダンスが始まる前に、MC は、バンド・リーダーが各ダンスについて正しい長さの音楽で準備しているかをチェックし、かつダンサーをフロアに招くための8小節イントロについて打ち合わせること。MC はフロアの広さに適応するライン(列)の数、ラインあたりのセット数をあらかじめ考えておかなければならない。MC はフロア・アレンジメントをアナウンスし、フロア全体を使ってセットを作るよう、かつスペースに限りがあるなら周りに気を配るよう、ダンサーに依頼する。

MC は列が壁に寄っていないか、列のサイズ(セット数) はちぐはぐでないかに気を配る必要がある。フロアを見渡すため、MC は一段高いところに立たなければならない。

列のトップにいるスチュワードは、セットの中でカップル数をカウントしなければならない。スチュワードは、セットができているか、できていなければ必要なカップル数はいくつかを、MC に告げなければならない。

カップルに「あなたたちは2ndカップルですよ」と、何番目かを認識させるのもスチュワードの役目である。口の中でモゴモゴ、か細い声で1、2、3、ではなく、はっきりした声でお願いしたい。

セットを作るのはMC の責任である。スチュワードは1カップル足りない場合、1本の指を壁、イス席に向かって揚げるのではなく、まっさきにMC にこの列は1カップル足りないことを示さなければならない。MC はフロアを見渡してイス席にいる参加者にセットに加わるよう促し、だめなときは未完のセットを解散させるか、それとも5カップルで踊らせるか、早めに決断しなければならない。

セットが出来あがったら、スチュワードは歩いてトップに戻ってほしい。走る必要はまったくない。日常生活で走るときとは、走らないと生命・財産・名誉など、重大な不利益をこうむるときだけである。ダンス会としてこれと同様である。走る姿ははしたないし、たった20メートルの距離、短い脚をチョコマカ動かしていったい何秒短縮できるというのか。

英国ではスチュワードはその言葉どおり、男の役割である。トップ・カップルが女性同士、ボトム側に男性がいる場合、トップの女性はその男性に「代わってカウントしていただけます？」と頼むのが通例である。アベックでカウントするやり方は、日本では1994年から始まった。この年の春、米国サンディエゴ支部のウィークエンドに参加した連中が米国西海岸の風習を持ち帰ったものである。MC の立場からいえば、男のみがカウントするほうがありがたい。1st man's place が空いていれば、この列のセットは未完、が判断できるからである。アベックでカウントするのがマナー、は誤解である。

ラウンド・ザ・ルームのダンス(2カップル対向)の場合、CWに向いたカップルはCW方向にダンスを続け、CCWに向いたカップルはCCWにダンスを続けることをダンサーに言う必要がある。1サークルで踊ると狭いとき、第2、第3のサークルは第1サークルの内側に作ること。

踊り終わったら、ダンサーはフロアをクリアにし、バンドがつぎのイントロを演奏するまで待ってなければならない。

ソーシャル・ダンシングが成功するかどうかは、MC の技量の如何にかかっている。MC はダンサーおよびミュージシャン両方に気を配らなければならない。ふつう、ベテラン・ダンサーは、経験の少ないダンサーよりもゆっくりしたテンポを好む。MC は参加者のレベルを見きわめ、どれくらいのテンポにするか、ミュージシャンに助言すること。MC はプログラムの完全消化を心がけながら、アンコールすべきかどうかを判断しなければならない。

すばらしいひと時は、真のフレンドシップ交歓感覚を基礎にした、グッド・ミュージックとグッド・ダンシングの組み合わせから生まれる。ダンサーは音楽を楽しみ、ミュージシャンはダンサーの盛り上がりによって喜びを得るのである。

以上がマニュアルの内容である。MC はソーシャル・ダンシングの始まりから終わりまでの一切を取り仕切る役割があり、たんなる進行役、ダンス説明役ではない。マニュアルにはMC が持つべき技量・資質について述べていないが、これについてはいずれ機会を得て経験者の意見を紹介したい。また、地震・雷・火事など不慮の災害発生時、マイクを握っているMC が、まず第一に参加者の安全を図らなければならない。万一災害が起こったとき、MC は何をなすべきか、事前に考えておくべきである。したがって、ダンスごとにMC が変わるやり方は好ましくないといえよう■

## ウィンタースクール 2004

(ケン春日)

東京ブランチ合宿に参加した英国人先生方の滞在につきあってぎりぎりまで日本に残ったため、パリ、ドゴール空港経由でスコットランドへ直行するはめになった。

成田からエールフランスの夜行便に乗ると、時差8時間のため翌朝5時にパリに着く。7時半のエジンバラ行きに乗り継ぎ、8時(パリ時間では9時)に同空港に到着する。バスでエジンバラ駅に向かい、インバネス行きの列車に乗ってピトロホリーへ。タクシーでアトール・パレス・ホテルに着いたのは昼前であった。このルートはお勧めである。

快晴。冬のスコットランドに来た気がしない。太陽がまぶしく、昨年よりもさらによい天気であ

る。3年前は猛吹雪の中にあった。なんとか目だけ出して歩いたことが嘘のようである。このとき雪に閉じ込められてひどいめにあったパリ・ブランチの連中、スコットランドはサマースクールだけで十分と、ウィンタースクールにはだれも来なくなった。今回のフランス共和国からの参加者は、モンペリエからシェイラ、ビル、クリスチーナ、リヨンから初めて参加のクリスチャン、計4名のみである。

クラスはアドバンスとベリー・アドバンスの2つ。今回の校長はブルース・フレイザー、教師はジャネット・ジョンストン、レス・ランバート、アン・テイラーである。ジャネットは相変わらずの早口で聞き取りにくい。アンはふくよかすぎて、ステップのデモンストレーションに難がある。グラスゴーのレスとは今回初めて会った。気さくで、人柄もよさそう。ブルースは校長のかたわら担当教師もつとめ、ケーリーも受け持って奮闘している。率直に言って、全般的に教師陣はかなり見劣りする。キース・スミス、マリアン・アンダーソン、パット・クラーク、ピーター・シャンドの音楽が輝いていたので救われた、という感じである。

ウィンタースクールも、サマースクール同様参加者が減ってきている。スクールと名がつくなら、多少ピリッとしたところがないと退屈する。単なる社交のために、時間と費用をかけてわざわざ遠くから参加する気になれない。RSCDS もすこし気合を入れて集客に努力しないと、近隣からしか

人が集まらなくなる。

わたしたちのクラスのメンバーは大部分が先生だった。スチュアート・アダム、アン・ディックス、ジュニー・グリーン、アリソン・ラッセル、レイチェル・ウィルトン、アレスター・エッキンヘッド、アツコ・クレメントほか、英国各地のブランチのチェアマン、ティーチャーである。これらの人にいまさら教えることなど何もないけれど、なあなあで適当にワハハハ・・・とやられたのでは、なにか学ぼうと参加している一般生徒はかなわない。むしろ「スクール」とは言わないで、先生方と楽しく過ごす「ガザリング、親睦会」とでも称したほうがよい。大先生方もセント・アンドリュースで教師をやっていたときと違い、すっかり気を許して可愛らしく間違えるので、微笑ましいことは微笑ましい。

サマースクールとはまるっきり違う雰囲気なので、日本から参加する人は親睦会に出るつもりで行ったほうがよい。なにか学ぼうと思って行くのがっかりするので、バーでアペリチフを飲んでワインをチビチビやりながらセッティングの夕食をたのしむ、まあ合間にダンスもあるし、くらいに思っていたほうがよい。

ブレア・カッスルのボールはいつもながらプレステージ（品格）あるもので、MCをつとめたピーター・クラークも多少上がり気味、リカップをときどき間違えたほどである。ヤンガーホール同様、ボールだけの参加者も多く、身動きできないほどであった■

## 新 CD 紹介 (Tom Toriyama)

### Scottish Heartbeat (SHIELCD021) by leading musicians and singers from Scotland

Gay Gordons, Waltz, Broon's Reel, Eriskay Love Lilt, Friday's Child, Highland Cathedral, Pipe Reels, Skye Boat Song, Tight Squeeze, Ashokan Farewell, Willie Hunter Two-step, Kintail, Two Sheeps & a Bit of a Caw, J B Milne, Medley - Scotland the Brave/ Black Bear (Pipe)/ Auld Lang Syne

今回は1種類だけで、カントリー・ダンスではなく、スコットランドの音楽と歌を編集したリスニング用のCDである。演奏・歌唱はドナルド・マクラウド、ニコル・マクレラン、ノーマ・リッチー、ロン・カーらで、パイプ、アコーディオン・バンド、フィドル・ソロなども収録している。



ダンス音楽ばかりでなく、このようなCDでスコットランドの空気を味わってみるのもよい。15曲すべてが傑出しているわけではないが、なんども聴いているうちに、「これ、いいじゃないか」と、お気に入りの音楽を見出すことができる。値段も手ごろである。

【注文略号:ハートビートCD】

ハートビートCD(送料込み)

¥1,500

上記の商品のご注文は  
郵便振替 00240-0- 63517 東京ブランチ  
締切り 4月30日(金)  
お渡し予定 5月下旬 担当 藤田淑子■

## 小海弘子さん、第2週に 〈サマースクール 2004〉

昨年に引き続き、本部要請によって小海弘子さんがサマースクール第2週で音楽陣に加わりま  
す。運がよければ、皆さんのうち何人かは小海さ  
さんのピアノで受講できるでしょう。小海さんのご  
健闘を願っております■

### グループ行事案内

岐阜スコティッシュカントリーダンスクラブ  
サマーボール 2004  
7月11日(日) 11-17.00  
岐阜グランドホテル  
¥8,000  
連絡先 渡部秀樹 0587-55-2423

次号は7月発行予定。8月-11月のお知らせをう

### 支部に口座は二つ

ランチへのご送金は、銀行送金や現金書留よ  
りも手ごろ、手軽、便利な郵便振替をご利用いた  
だいています。わがランチが郵便振替口座を2  
つ持っていることはご存知でしょうか？ ラン  
チレターでそのつど、どちらの口座にご送金い  
ただくかお知らせしていますが、無頓着な会員も  
おられるため、あらためてお知らせいたします。

(1)00160-9- 64023 RSCDS 東京ランチ  
入金管理：トレジャラ

創立以来の一般会計用口座で、年会費・合宿参  
加費などのご送金にご利用いただいています。

(2)00240-0- 63517 東京ランチ  
入金管理：ランチショップ担当

商品ご注文専用の口座です。一般会計とラン  
チショップ会計を区別し、ランチショップ作業  
の効率化を図るため、6年前に新設した口座です。

口座名義人名が(1)とまぎらわしいので、たと  
えば「東京ランチショップ」などに名前を変更  
したいのですが、口座売買・マネーロンダリング  
防止の余波で、会則条文に該当名明記がないと変  
更できない、という状況です。

本号のランチレターに2種類の郵便振替用  
紙を同封しています。用紙をとり違えられると、  
ランチでの手続きが遅れることがありますの  
で、ご送金にあたっては、十分ご注意ください■

## 2003-2004 本部活動指針

**使命** RSCDS-世界にスコティッシュ・カントリー・ダ  
ンシングを広め、教えること。

- 目標**
1. SCDの進歩的な姿を広める。
  2. 価値ある、ソシヤブルで健康的な趣味として、  
SCDをはじめめる成人を励ます。
  3. 年少者にSCDへの熱意を抱かせる。
  4. 最善の方法で学校におけるSCDを指導し、  
先生を育成する。
  5. SCDのために演奏するミュージシャンを育成  
し、かつライブおよび録音音楽の質を高める。
  6. 伝統的なSCDに関連するダンス、ダンス形  
式および音楽を調査し、それらを出版する。
  7. RSCDS支部およびSCDを愛好するグループ  
の設立をうながす。
  8. RSCDSの目的に共鳴するあらゆるSCDグル  
ープを支援し、励ます。
  9. RSCDSの目的を助成する活動を励ます。

- 3年後のあるべき姿**
1. 会員数が増え、支部お  
よびソサエティ・レベルで、会員による関与が  
増えた。
  2. 支部、ティーチャー、会員、グループとのコ  
ミュニケーション・システムが発展した。
  3. 会員と支部のニーズに合致した会員制度にな  
った。
  4. 新会員制度は財政基盤を健全化した。
  5. 支部のネットワークが強化された。
  6. ティーチャー育成の仕組みが見直された。
  7. 意思決定および業務の仕組み・手順について  
継続して見直しながされた。

### 各委員会の優先順位

1. **総括・財務委員会**
  - ・本部のPC、ソフトの再検討
  - ・本部事務室の維持計画の策定
  - ・本部地下室の改修
  - ・本部スタッフの勤務評定と、あるべき能力の  
再検討
  - ・ウェブサイトの開発
2. **教育・訓練委員会**
  - ・子供向けメダル・テストの開始
  - ・ユース・スクールの実施
  - ・新エギザミナーの任命
  - ・新試験制度の推進
3. **会員サービス委員会**
  - ・すべての音楽のCD化
  - ・Book 44 ダンス選定における支部の関与
  - ・録音作業における日程順守
  - ・商業戦略の開発・ダンスブックの改訂
  - ・ポケット版のCD化・ブリティンなどの配布  
の合理化・ウォームアップ・テキストの発行
  - ・Dance Detailsのウェブサイト化■

Won't you join the Dance?

(ジーン・マーティン)

ミス・ミリガンが著したこの本を覚えている人も多いと思います。ミリガンの物語は数多くあり、最近の人たちは彼女について間違っただけの印象を持っていることがあります。この世界でパワフルでしたし、すべてについてははっきりした見解を示す人でした。しかし、彼女はSCDにやってくる新人を大歓迎し、力づけたのです。本の題名は彼女の考えを如実に表わしています。

現在、われわれの重要事はSCDへの勧誘を続けることにあります。わたしたちは過去を懐かしむのではなく、将来を見据えなければなりません。すべてのダンサー(ヤング・ダンサーとは限りません)がソサエティ会員でないことは、みなさんご承知です。ランチ会員になるよう、その人たちに誘ったことがありますか？RSCDSが排他的で閉ざされた社会である、という印象を与えていませんか？われわれ1人1人がソサエティを広める一翼を担っているのです。

みなさんが、多くの人をRSCDSに引き寄せるよう、実際にやってみてください。小さなきっかけで十分です。たとえば、「RSCDSの会員にならないのはなぜ？」よりも「会員になりませんか？」。プラス思考が大切です。

激励がヤング・ダンサーにとって重荷にならないように、そしてすべて朗らかにやってください。みなさんはブリティンで、バンクーバーにおけるユース・ウィークエンドの模様を読まれたと思います。4月開催の春の大会(ケンブリッジ)もほぼ満杯になりました。スコットランドの主要都市にはヤングのグループがありますが、そのダンシング・スタイルがRSCDSに合っていないからといって、それが本質的な問題でしょうか？(ダンシングの上手下手を言っているわけではありません)。RSCDSを存続させたいなら、さらなる80年を祝いたいなら、わたしたちは寛容であらねばなりません。

本部は関係官庁向けの書類で、SCDは8歳から80歳まで人生を楽しく生きるための活動、を強調しています。現在、英国官庁から様々な引合いがあり、これは他の国が国民の健康問題に真剣に取り組んでいることによるものと思われる。多くの人を、趣味としてのダンシングに引込むよい機会です。

会員制度のあり方について、たくさんの意見をいただき、理事会は目を通すのに苦勞しているほどです。この案件で、みなさんからの意見を反映することをお約束します。新試験制度について、担当委員会から提出された原案を本ニューズブリーフの3ページに載せてあります。みなさんからのご意見をお寄せください。

Book 44 ダンスの選考で、そして会員制度の

意見聴取で、たくさんの会員にかかわっていただきました。ソサエティ活動に携わる感じを得たし、RSCDSファミリーの強化につながったという声を耳にしています。

いま、わたしたちの役割とは、会員勧誘(Won't you join the Dance?)を進展させ、ファミリーの一部になってもらうことです。皆さん、いまがそのときなのです。(写真はAGMにおけるジーンと夫君イアン)

年次総会-2003年11月

金曜夜のボールに645名、土曜日夜には687名のダンサーが参加した。[これ以外は東京ランチレターで報告済みのため略]。

2003-04理事会・各委員会委員名簿

〔邦訳略〕

2004年理事会・各委員の選挙

チェアマン候補および理事・委員の一部の選挙を行なう。[現チェアマンのジーン・マーティンは任期満了、次期チェアマンはスチュアート・アダムに決定済み]。立候補用紙は4月から配布。

新試験制度〔本部原案〕

試験制度を見直すため作業部会が置かれ、ソサエティおよび会員の要求に合うものとして、以下の基本制度を具体化した。原案策定にあたり作業部会が目標としたものはつぎの4点である。

- ▶ 受験資格のスタンダード(レベル)を維持、あるいは向上する。
- ▶ トレーニング・コースにおける指導の理論と実技の学習時間を増やす。
- ▶ 母体ランチで行なわれるべき学習事項を増やす。
- ▶ 会員からの要望事項を反映する。

原案は2パート・5ユニットの制度である。第1パートに合格した受験生は、指導認定パート1が与えられ、第2パートに合格した受験生は指導認定パート2となる。これは現行制度に合わせた提案であり、現行試験の途中にある受験生が、新制度にスムーズに移れるよう考慮したものである。作業部会は、つぎの事項が重要と考えている。つまり、ユニットごとに再受験できること、評価過程においてチューターの判断を取込むこと、変更が近年の試験方法からも逸脱のないこと、世界のどこにおいても首尾一貫した制度とすること、である。新制度原案の概要はつぎのとおり。

指導認定:パート1

ユニット1: 筆記試験

ユニット2: ダンシング実技

### ユニット3: 指導レベル1

#### 指導認定: パート2

ユニット4: 指導経験記録のチェック

ユニット5: 指導レベル2

ユニット1はマニュアルの理解度である。受験生は独学で、あるいは短期コース参加で試験に備える。試験はその地域で年2回行なわれる。

ユニット2の試験要領は現行予備試験のダンシング実技に類似である。受験生は個別に、あるいはコース参加により試験に備える。試験はその地域の必要度に応じて行なわれる。

ユニット3と5のトレーニングはコース参加により行なう。ユニット4は、ユニット3と5のあいだにおける指導経験記録の評価である。

新制度原案は、意見聴取を条件に理事会によって承認された。各ブランチ・セクレタリに新制度とその試験要領概略、移行における取扱い手順を送り、ウェブサイトにも記載した。新制度提案入手についてはブランチ・セクレタリに問い合わせられるか、ウェブサイトをご覧いただきたい。各会員の意見、要望を寄せられたい。

今後の日程はつぎのとおり。

- 2004/3/04 新制度原案発表
- 2004/5/10 意見提出締切り (本部着のこと)
- 2004/5/29 教育訓練委員会で検討
- 2004/6/12 修正案を理事会に提案

新制度承認後、その実施は2005年6月を予定している。

#### 次期年次総会-2004年11月5-7日

エジンバラ市当局の手違いにより、11月のAGMは同市で開催不可となり、パースで行なわれる。開催要領は3月末に発表される。

#### フィーチャード・ダンス2004-05

ソサエティは、みなさんがこれらのダンスのいくつかを行事プログラムに取入れてほしいと願っている。

ダンスのブックおよびCDはすべて本部から入手可能。

#### スコット・スキナーのウェブサイト

9月29日、アバディーン大学のスコット・スキナー・ウェブサイトのオープニングにチェアマンが出席した。3つの小学校の児童、プロジェクト参加者、音楽舞踊関係者が出席し、よい朝であったとジーンは言っている。

大学図書館歴史部門のパット・バラントインが

プロジェクト担当で、ウェブサイトのトップページを面白いものにしたのも彼女である。当時、“ストラスペイ・キング”、スコット・スキナーはポップスターで、子供はみんな夢中であったという。子供たちは、ハイランド衣装に身をつつみ、りっぱな口髭をつけた紳士が永遠のポップスター、と信じていたという。

ウェブはスキナーのデータベースでもあり、音楽、手紙、写真、記事、文献など数百におよぶ資料を収めている。プロジェクトはアバディーン市、アバディーン県、アングラス行政区の資金で運営されている。

#### ジミー・シャンド彫像の除幕式

元チェアマンのリンダ・ゴールとアラン・メア、セクレタリのエルスペース・グレイが、2003年9月12日、故郷のオーヒタマティで行なわれたサー・ジミー・シャンド像の除幕式に招待された。世界各国のRSCDS会員、ブランチが彫像建立募金に協力した、というわけでソサエティは当日とてもよく迎えられた。エルギン卿が式を主宰し、ジミー・シャンドの家族も出席していた。

彫像建立募金事務局のジョン・トムソンから、記念像設立に協力したすべての皆さんに感謝申しあげる、とのことばがあった。

#### ソサエティ組織で多くの反応

AGM 2003のパネル・ディスカッションに続き、「ソサエティは会員主体あるいはブランチ主体、いずれの組織であるべきか」の案件で、会員および各ブランチに意見を求めた。多くの反応が寄せられ、そのすべてを理事会に提出した。この問題は、4月3日の理事会で集中的に論議される。

この件に関して意見を寄せられた皆さんに感謝する。その結論については、文書郵送およびウェブサイトでお知らせする。

[本件、東京ブランチ委員会は「ソサエティはブランチ主体の組織であるべき」で本部に意見提出しました。]

例年5月に送られてくるニューズブリーフ、今回は3月末に到着し、いささかあわてました。ブリティン配布の遅れを、ニューズブリーフ早期配布で挽回する意図があったかと想像しますが、本当の目的は新試験制度原案を周知させたい、というところでしょう。東京ブランチレターNo.63に同封して英本文と要約をみなさんに送ることができ、委員会もほっとしています。  
(Tom Toriyama)

(RSCDS 東京ブランチ 2004年4月)